

だ み よ く り に

No.766 令和 7 年 10 月 1 日発行

「その子がいま、その子であること」

9 月、純真無垢できれいな言葉と出逢いました。ある子どもたちのいざこざの後のやりとりです。

A くん「ごめんね」

B くん「だいじょうぶだよ」

「ごめんね」と言われて何と答えますか。状況、要因、心情によって異なると思いますが、一般的に出てくるであろう言葉を並べると……「いいよ」「わかった」「わたしもごめん」などでしょうか。「大丈夫だよ」が出てきた方はいますか。この言葉を聞いた時、B くん自分の心情と相手への優しさがよく表現されているように感じ、グッときました。長年子どもたちと関わってきた中で類を見ず、心に残りました。誰かの催促や強制を受けることなく、その子の中から出た純真無垢できれいな言葉だと感じました。

さて、このように、子どもたちに心を洗ってもらった毎日を過ごしながら、秋の訪れを心待ちにしていた 9 月中旬。我が家のテレビはしばしとある局一本でした。それは陸上好きな家族の影響で「世界陸上」を観るため。家族には内緒ですが、はじめは完全受け身でした。が、とあるイブニングセッションを観に行ったところ、わたしの感情が一変。「いけるいける」「頑張れー」という大きな声援と拍手で、本当に選手に勢いがついて、勝てるのではない、そんな感覚がしたのです。観客、選手が一体となるとはこのようなことでしょうか、とても楽しかったです。それから自らテレビをまわし、家族がいない時間にも観戦するようになりました。このとき実体験したのは、経験するってこんなに大事なんだということ。そして、選手のインタビューに注目したところ、「楽しく」という表現をしている選手がいることに気づきました。

4×100 メートル 1 走 小池選手 「歓声がすごくて、うわ楽しいなと思った」

100 メートルハードル 田中選手 「悔しかったけど、楽しかった」

1 万メートル 廣中選手 「この 25 周が楽しかった、と心から思える試合だった」



インタビューの中で「楽しかった」と言う選手が何名も。もちろん、単純な「楽しい」ではなく、その背景に努力、辛さ、悔しさなど色んな経験と感情があるのは言うまでもありません。だからこそ「楽しく」という表現をしていることに重みを感じたのです。大人が楽しくなるのですから、ましてや子どもはなおさらですね。

さて 10 月、みくに学園でも世界陸上もとい「運動会」を行います。国旗が様々な形や色をなして唯一無二であるように、子どもたち一人ひとりの表現も様々で唯一無二です。それでよいのです。わたしたちみくに学園が大切にしているのは子どもたちの「内的生命力」(自分にとって必要な行動に没入し、自分を成長させていこうとする力)。そして今、教育界の大きなテーマとされている「主体性」。全員が同じように動くことや揃うことを目指しているわけではないのです。玉川大学教授の大豆田啓友先生は、こう言います。「主体性とは私が私であること」と。子どもたちのどのような姿も、「その子がその子であるということなのだ」という視点と想像力で見ていただけますと、子どもたちは幸せだと思います。毎年、保護者の方々の温かい眼差しと雰囲気の中、運動会を執り行うことができるのは子どもたちにとって幸せなことです。今年もそのような運動会を、一緒に作っていただけますよう心よりお願い申し上げます。

いろんな葉っぱが 風にゆれます

大きな葉っぱ 小さな葉っぱ

喰われた葉っぱ ゆりかごの葉っぱ / ほら ー 風が 歌っています

そのまんまで いいですよ / そのまんまが 素敵です

(小西貴士「子どもと森へ出かけてみれば」)

つい、周りと比較したり、溢れる情報に左右されたりしそうなになったら、こういう言葉を思い出してほしいと思います。子どもも、大人も、こういう心持ちで、想像力をもってお互いを大切にしていけますように。